第１章　平成19年度山口大学構内遺跡の調査

第１節　平成19年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡内にまたがって位置している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財を保護･調査･研究･活用する施設として、昭和53年に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成19年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体（山口県および各市）の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の三種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設（職員宿舎等）敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、出来うる限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の現状の職員配置は、専任教員２名と教務補佐員１名、事務補佐員１名である。

上記の調査の結果で埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうかについて厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報（本書）を刊行している。

上記の調査体制の下、平成19年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、下記の通り本発掘調査１件、予備発掘調査２件、立会調査６件、確認調査１件の計10件であった。次頁より該当年度の各遺跡（各構内）の概要を記す。

表1　平成19年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積（㎡）	調査期間	本書掲載頁
本発掘	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期工事	吉田	T-20	48	7月9日～7月24日	5～15
予備発掘	教育学部附属山口中学校校舎等改修その他工事	白石		121	6月13日～7月3日	23～27
	医学部総合研究棟改修Ⅰ期工事	小串		6.75	8月1日～8月6日	29～32
立会	駐車場整備工事	吉田	J-21	10	6月15日	16
	資料館（東亜経済研究所）新営工事	吉田	L-20･21区	550	6月25～6月26日	17～18
	第一事務局庁舎改修工事	吉田	L-15	5	11月7日	19
	吉田寮前配水管敷設工事	吉田	M-11	11	1月10･15日	20
	農学部附属農場内電源敷設工事	吉田	Q-15　S-18	0.5	3月17日	21～22
	教育学部附属山口中学校校舎等改修その他工事	白石		38	8月6日、10月26･30日	28
確認	工学部総合研究棟（本館）改修工事（Ⅲ期）	常盤		147	9月19日	33

吉田構内（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在）

平成19年度は本発掘調査１件、立会調査５件を実施した。

農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期工事に伴う本発掘調査は、前年度に実施した調査区の東に隣接する地点で実施した。前年度調査では古代の遺物を多量に包含する埋没谷とともに、大型掘立柱建物跡を始めとする３棟の建物跡を確認するなど、吉田地区に存在したと推測される「古代官衙」を解明する上で重要な成果を得た。今回の調査では、遺構群の東方（丘陵上位）への広がりの確認が期待された。調査の結果、土壙、Ｐｉｔ等の遺構が検出されたものの、狭小な範囲での調査であったため各遺構の関係性は把握できなかった。また、地形的に高位となる東方ほど遺構の分布が希薄となり、大学移転時の造成工事で地山が広範囲に削平を受けていることが確認された。

立会調査では、吉田寮前配水管敷設工事において遺物包含層と推定される堆積層を、農学部附属農場内電源敷設工事では２地点において遺物または遺構を確認した。いずれも吉田構内丘陵地における

写真1 吉田構内航空写真（南東から）

写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真（東から）

写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真（南から）

図1 山口大学吉田・白石構内位置図

確認であり、未発見の集落等が埋存している可能性を高める調査結果となった。

白石構内（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

平成19年度は、予備発掘調査１件、立会調査１件を実施した。予備発掘調査では、縄文時代以前の河川堆積土と推定される層位と、その上位に形成された遺構群（落ち込み１基、ピット２基）を確認した。遺構の所属時期は不明である。立会調査でも同様に河川堆積土、遺物包含層を確認し、本年度調査地点の周囲にさらなる遺構・遺物等が埋存する可能性を高らしむる調査結果となった。

小串構内（医学部、同付属病院：宇部市南小串1丁目1-1）

平成19年度は、予備発掘調査１件を実施した。医学部総合研究棟改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査では、排水枡設置予定地３ヶ所に調査区を設定したが、いずれも現地表下約1.5m付近で旧耕土を確認した。小串構内北部域では、旧耕土下に近世の客土が存在し、以下に複数の遺物包含層が堆積するという共通の層序が確認されている。本調査周辺域も同様の堆積層が埋存するものと思われる。

常盤構内（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中町2658-3所在）

確認調査１件を実施した。平成18年度より、山口県教育委員会により山口大学工学部構内遺跡の範

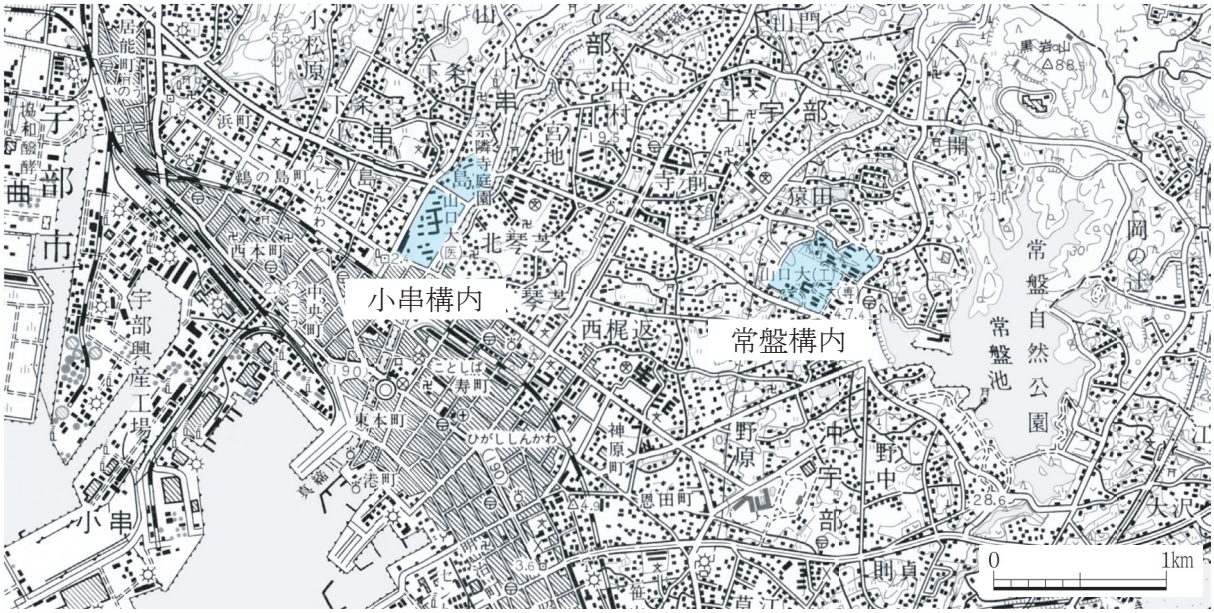

図2 小串・常盤構内位置図

写真4 小串構内航空写真（南東から）

写真5 常盤構内航空写真（南から）

囲が修正され、調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地外となった。慎重を期して工事中の確認調査を実施したが、削平された地山を検出するに止まった。

光構内（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号）

平成19年度は、該当地での掘削を伴う開発等工事は実施されなかった。

平成19年度は、例年に比して地下の掘削を伴う工事計画が少ない年度であった。しかしその中でも吉田地区（吉田遺跡）、白石地区（白石遺跡）で得た新知見は、本学の今後の埋蔵文化財保護業務、そして遺跡の実態解明へ大きな手掛かりとなるものである。

写真6 光構内航空写真（北東から）

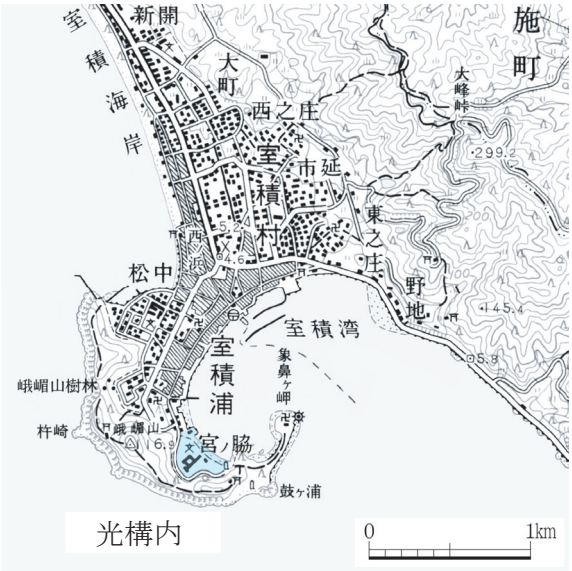

図3 光構内位置図